

六角橋商店街(横浜市神奈川区)が、地域と協力しながら「高齢者に優しい街」づくりに取り組んでいる。商店主の多くが認知症サポーターになり、敬老の日の18日から「世界アルツハイマーデー」の21日まで認知症啓発イベント「オレンジプロジェクト」を開催。高齢者がより安心して暮らせる街を目指している。

(尹 貴淑)

8月30日(同商店街)「認知症サポーター養成講座」が開かれた。「認知症の人と接するときは、驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけない、否定しない」とが大切。「様子が気になる人がいたら、ケアアブラサなどに相談して」。市六角橋地域ケアプラザ(同区)の職員がそう解説すると、受講した商店主らは熱心にメモを取った。

プロジェクトは昨年、六角橋自治連合会と同ケアプラザ、神奈川大学の学生による「まち×学生プロジェクト」の企画としてスタート。同商店街で認知症への理解を深めるランチョンマツトを使い、ポスターを掲示した。

18日からイベント 六角橋商店街

高齢者に優しい街へ



「オレンジプロジェクト」に携わる(左から)佐藤さん、六角橋地域ケアプラザの原島隆行さん、池田さん、石原さん。＝横浜市神奈川区の六角橋商店街

今回はより積極的な催しとして、同商店街で開業する整骨院の体操指導や、認知症の当事者がボランティアで売り子を務める「へっちゃんら商店」、神大のボランティアサークル「GLO BAL YEN LEA P」の学生によるサポーター講座などが行われる。

「たい」と話す。同商店街と高齢者は深い縁がある。170軒の中には、80代の店主もいる。足しげく通い、親しくなった客もだんだん年を取り、「あの人、最近見ないね」と話すことがある」と同商店街連合会会長の石原孝一さん(58)。

その気付きをケアアブラサなどにつなげ、「話題にするだけでなく、一報して様子を見てもらう」形にすることを思い描く。その糸口になる認知症サポーターは、8月末現在で59店舗の約80人が認定された。

同商店街の取り組みは今後も続ける予定だ。石原さんは「認知症の人が商店街で安心して見守られていると、家族の人が感じられるようになればうれしい」と意気込む。

プロジェクトの問い合わせは、同ケアプラザ ☎045(413)3281。

認知症啓発へ神大生ら協力